

2026年2月16日

HEROZ 株式会社

HEROZ と朝日新聞社、将棋 LLM が対局を「言語化」する新サービス「棋神チャット」を YouTube チャンネル「囲碁将棋 TV-朝日新聞社-」で提供開始 ～2月26日のA級順位戦で初公開～

HEROZ 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 CEO：林 隆弘、以下「HEROZ」）と株式会社朝日新聞社（本社：東京都中央区、代表取締役社長 CEO：角田 克、以下「朝日新聞社」）は、HEROZ の生成 AI による将棋 LLM（大規模言語モデル）を活用し、トップ棋士の対局を自然言語で解説する新サービス「棋神チャット」の提供を開始します。本サービスは、朝日新聞社の YouTube チャンネル「囲碁将棋 TV-朝日新聞社-」でご覧いただけます。2月26日、藤井聰太名人への挑戦者を決める舞台となる A 級順位戦で初披露します。HEROZ は、AI を活用した革新的な取り組みを通じて、トップ棋士の対局を「言語化」するという新しい観戦体験を届けます。

YouTube チャンネル「囲碁将棋 TV-朝日新聞社-」

<https://www.youtube.com/@igoshogitv>



囲碁将棋TV -朝日新聞社-



©igoshogitv チャンネル登録者数 12.6万人・2401 本の動画
囲碁や将棋の動画を紹介します。将棋の順位戦や囲碁の名人戦リーグの対局中継...さらに表示
asahi.com、他 2 件のリンク

■ 「棋神チャット」で、「観る将」が一層楽しめるサービスに進化

近年、自分は指さなくてもプロの将棋を観戦して楽しむ新しいファン「観る将」が増えています。その大きなきっかけの一つが、HEROZ が開発した AI による棋譜解析サービス「棋神アナリティクス」です。盤上の形勢を数値で可視化し、将棋のルールを知らなくても「どちらが勝ちそうなのか」が分かるようになり、野球やサッカーと同じように、プレイヤーでなくともトッププロの対局を楽しめる基盤をつくりました。朝日新聞社の「囲碁将棋 TV」でも 2024 年から「棋神アナリティクス」を活用し、名人戦七番勝負や名人戦につながる順位戦をライブ中継してきました。

今回提供を開始する「棋神チャット」では、対局中の局面の要点や狙いどころをリアルタイムで言語化し、将棋初心者の方でも分かりやすく観戦できる体験を提供します。「棋神アナリティクス」で得られる解析結果をもとに、形勢の変化や注目すべき手、考えられる次の展開を言語で整理して提示することで、「いま盤上で何が起きているのか」「この一手は何が重要なのか」といった疑問をその場で解消します。

観戦者は、「棋神アナリティクス」を使った「どちらが勝ちそうか」に加え、局面の見どころや戦いの焦点を理解しながら対局を追うことが可能になります。高度で専門的になりがちな将棋の読み筋や局面のポイントを、誰にでも伝わる言葉へ変換することで、将棋を知らなくてもトッププロの対局に一喜一憂する体験ができます。最新の技術が、最高峰の戦いをこれまで以上に楽しめることを可能にしました。

なお、AI 解説者には朝日新聞社のオリジナルキャラクター「マダニヤイ」を起用し、より身近に感じてもらえるサービスにします。



朝日新聞社オリジナルキャラクター「マダニヤイ」

「囲碁将棋 TV」でのお披露目となる 2 月 26 日の A 級順位戦の中継中、正午からトークショーも配信します。ぜひご覧ください。「棋神チャット」の開発過程についてもお問い合わせください。

YouTube 上のお披露目イベント概要

- 日時：2 月 26 日（木）12 時 00 分～12 時 40 分
- 「囲碁将棋 TV-朝日新聞社-」
<https://www.youtube.com/@igoshogitv> にて配信開始
- 「囲碁将棋 TV-朝日新聞社-」(<https://www.youtube.com/@igoshogitv>) 上で配信予定の永瀬拓矢九段ー佐藤天彦九段戦の対局中継で、初めて棋神チャットによる解説をお披露目します。
- 棋神チャットを開発した HEROZ の大森悠平と朝日新聞文化部の村瀬信也氏（将棋担当デスク）によるトークショーを配信。将棋観戦に AI が果たしてきた役割についての歴史をひもときつつ、「棋神チャット」の楽しみ方や開発秘話に迫ります。解説の棋士も登場予定です。

■将棋がつなげた AI×メディア

HEROZ は 2009 年、「AI で世界を驚かすサービスを創出する」ために創業し、「AI 革命を起こし、未来を創っていく」ことをビジョンとしています。

これまで HEROZ は、「棋神アナリティクス」のほか、スマートフォンで誰もが気軽に将棋を楽しめるオンライン将棋対戦ゲーム「将棋ウォーズ【日本将棋連盟公認】」、世界コンピュータ将棋選手権で 2 連覇した将棋 AI 「dlshogi with HEROZ」、棋譜記録の自動化「HEROZ Kishin Eye」などの AI サービスを送り出し、将棋ファンの拡大に貢献してきました。

一方、朝日新聞社も長年にわたり将棋文化を支え、名人戦（毎日新聞社と共に）と朝日杯将棋オープン戦の主催者としてプロの最高峰の戦いを伝えています。アマチュアの裾野拡大にも長年取り組み、今年で 48 回目となる朝日アマチュア将棋名人戦を主催するほか、大学生の日本一を決める学生名人戦にも協力しています。

また、HEROZ の林は 1996 年、早稲田大 1 年生の時に第 19 回朝日アマチュア全国大会に史上最年少で優勝した実績があります = 写真下 =。将棋ファンを増やしたい、革新的な技術で将棋ファンに新たな体験を届けたい——。AI 企業である HEROZ とメディア企業である朝日新聞社の思いが一致し、今回の協業につながりました。



朝日アマ将棋名人戦全国大会で優勝した林隆弘 = 1996 年撮影、朝日新聞社提供

株式会社朝日新聞社 野村周常務執行役員（コンテンツ政策／デジタル事業担当）コメント

朝日新聞社が長年培ってきた将棋文化と HEROZ の高度な AI 技術が融合したことで、これまでにない将棋の楽しみ方が生まれました。今回始めるライブ中継に加え、HEROZ の「棋神チャット」の活用で、順位戦や朝日杯の熱戦を、これまで以上に朝日新聞デジタル版で紹介することも検討しています。将棋にとどまらず、伝統メディアと AI 企業の協業によって、さらに刺激的で魅力ある体験を創出できないか、さまざまな可能性を探っていきます。

HEROZ 株式会社 林隆弘代表取締役 CEO コメント

将棋は長い歴史の中で、知の象徴として人の思考と文化を映し続けてきました。将棋ファンの皆さんにとって将棋は、「勝ち負け」だけでなく、棋士の指し手の裏にある思考や感情まで含めてライブ感覚で味わう文化だと思っています。朝日新聞社が長年築いてきた将棋文化の価値を最大化するために、HEROZ が培ってきた実戦的 AI 技術を融合することで、名局の一手一手をより深く理解し、楽しめる新たな顧客体験を提供できることをとても楽しみにしています。

本取り組みを将棋 LLM 「棋神チャット」での協業の起点とし、将棋領域にとどまらず、囲碁や、AI×知、AI×報道の可視化といった分野でも連携を加速させ、日本から世界に誇れる知的コンテンツを一緒に生み出していきたいと考えています。

【HEROZについて】

HEROZ は、世界を驚かすサービスを創出することを目指す AI 企業です。将棋 AI の研究開発から生まれた独自 AI を軸に、ディープラーニング（深層学習）等の機械学習の研究開発や、生成 AI を活用した AI アシスタント「HEROZ ASK」の開発など、ビジネスでの実戦的な AI 活用を続けています。私たちの技術・サービス開発により AI 革命を起こすことで、各産業にパラダイムシフトを起こし、新しい未来を創ることに挑戦しています。

<https://heroz.co.jp/>

【本件についてのお問い合わせ】

HEROZ 株式会社 IR 事務局

Email : ir_schedule@heroz.co.jp

以上